



# 製品安全データシート

作成日 2009年12月15日  
改訂日 2010年7月1日

製品名： カルウ

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称：	水酸化カルシウム（主成分）
会社名：	<b>田中石灰工業株式会社</b>
住所：	高知県高知市五台山3983番地
電話番号：	088-878-0566
緊急連絡電話番号：	088-882-1158
FAX番号：	088-884-0289
メールアドレス：	sekkai@tanakasekkai.jp
推奨用途及び使用上の制限：	建材、左官用材料としての使用を推奨する。

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器系）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分2（肺）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

### ラベル要素

絵表示又はシンボル：	該当するGHSラベル要素なし。
注意喚起語：	該当するGHSラベル要素なし。
危険有害性情報：	該当するGHSラベル要素なし。
注意書き：	該当するGHSラベル要素なし。
国・地域情報：	—

## 3. 組成、成分情報

## 化学物質

単一製品・混合物の区別：	混合物					
一般名：	生石灰クリーム					
化学名：	水酸化カルシウム	炭酸カルシウム	のり	高分子 中空微小球	アクリル系共重 合体ラテックス	水
成分及び含有量：	25～30 %	30～35 %	0.2～0.5 %	1.5～2.5 %	5～6 %	27～35 %
化学式：	Ca(OH) <sub>2</sub>	CaCO <sub>3</sub>	非開示	非開示	非開示	H <sub>2</sub> O
C A S 番号：	1305-62-0	471-34-1	非開示	非開示	非開示	7732-18-5
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)：	1-181	1-122	非開示	非開示	非開示	—
分類に寄与する不純物 及び安定化添加物：	情報なし					
濃度又は濃度範囲：	情報なし					

## 4. 応急措置

吸入した場合：	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合：	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合：	直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	速やかに口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状及び 遅発性症状：	吸入した場合：咽頭痛、咳、灼熱感。 皮膚にふれた場合：刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、薬傷、水疱。 目に入った場合：発赤、痛み、重度の薬傷。 飲み込んだ場合：灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐。
最も重要な兆候及び症状：	

## 5. 火災時の措置

消火剤：	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水。 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。
特有の危険有害性：	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法：	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 少量の場合は、乾燥砂等で被覆し、窒息消火する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消化する。
消火を行う者の保護：	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不透性の防護衣を着用する。 低地から離れる。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項：	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和：	乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
封じ込め及び浄化方法・機材： 二次災害の防止策：	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

床面に残ると滑る危険があるため、こまめに処理する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
局所排気・全体換気： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。  
安全取扱い注意事項： 接触、吸入又は飲み込まないこと。

接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

### 保管

技術的対策： 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
混触危険物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。  
保管条件： 破袋、凍結のない様に保管すること。  
容器包装材料： 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度： 設定されていない。

### 許容濃度：

日本産業衛生学会： [水酸化カルシウム] 設定されていない。

[炭酸カルシウム] 8mg/m<sup>3</sup> (総粉じん) (2007年)

### ACGIH：

[水酸化カルシウム] TLV-TWA 5mg/m<sup>3</sup> (2005年)

[炭酸カルシウム] TLV-TWA 10mg/m<sup>3</sup> (2001年)

### 設備対策：

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

### 保護具

呼吸器の保護具： 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具： 保護手袋を着用すること。

眼の保護具： 適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 顔面用の保護具、保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。

### 衛生対策：

取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など： 白色のペースト (クリーム) 状

臭い： 微アクリル酸エステル臭

pH： 12.4

融点・凝固点： [水酸化カルシウム] 580 °C (分解 脱水してCaOとなる)

[炭酸カルシウム] 900 °C (分解 脱炭酸してCaOとなる)

沸点、初留点及び沸騰範囲： 分解

引火点： 不燃性

爆発範囲： 不燃性

蒸気圧： データなし

蒸気密度 (空気 = 1)： データなし

比重 (密度)： [水酸化カルシウム] 2.24

[炭酸カルシウム] 2.71

溶解度： [水酸化カルシウム] 0.185g/100g水 (0 °C)

[炭酸カルシウム] 0.014g/100g水 (25 °C)

オクタノール/水分係数： データなし

自然発火温度： データなし

分解温度： [水酸化カルシウム] 580 °C

[炭酸カルシウム] 900 °C

臭いのいき (閾) 値： データなし

蒸発速度 (酢酸ブチル = 1)： データなし

燃焼性 (固体、ガス)： データなし

粘度： データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性： 大気中で炭酸ガスを吸収し、漸次炭酸カルシウムとなる。

加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。

危険有害反応性可能性： 酸類と反応し発熱する。

強酸化剤と反応する。

多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。

避けるべき条件： 空気との接触、加熱。

混触危険物質： 強酸化剤、酸類。

危険有害性のある分解生成物： 水の存在下で、多くの金属を侵す。  
酸化カルシウム

## 11. 有害性情報

急性毒性： 経口： [水酸化カルシウム] ラットのLD<sub>50</sub>値7340mg/kgに基づき区分外とした。  
[炭酸カルシウム] ラットのLD<sub>50</sub>値6450mg/kgに基づき区分外とした。

皮膚腐食性・刺激性： 経皮： データなし  
吸入(粉じん)： データなし  
[水酸化カルシウム] 眼及び気道を含む全ての身体表面暴露に対し中程度の刺激性を示すとの記述及びヒト皮膚に対して moderate, severe, corrosive な刺激を示すとの記述から区分2とした。皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性： [水酸化カルシウム] ヒト眼に対して moderate, severe, corrosive な刺激を示すとの記述及びウサギに対して corrosive な刺激を示すとの記述から区分1とした。重篤な眼の損傷。

呼吸器感作性又は皮膚感作性： 呼吸器： データなし  
皮膚： データなし

生殖細胞変異原性： データなし  
発がん性： データなし  
生殖毒性： データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)： [水酸化カルシウム] ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述から区分1(呼吸器系)とした。呼吸器系の障害。

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)： [水酸化カルシウム] Priority 2 においてヒト肺を冒すことがあるとの記述から区分2(肺)とした。長期または反復ばく露による肺の障害のおそれ。

吸引性呼吸器有害性： データなし

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性： データ不足のため分類できない。  
水生環境慢性有害性： データ不足のため分類できない。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装： 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分に告知の上処理を委託する。  
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制  
海上規制情報 該当しない。  
航空規制情報 該当しない。

国内規制  
陸上規制情報 該当しない。  
海上規制情報 該当しない。  
航空規制情報 該当しない。

特別の安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法： [水酸化カルシウム] 名称等を通知すべき有害物(政令番号 第317号)  
海洋汚染防止法： [炭酸カルシウム] 有害物質(Z類物質)(法第3条第3号)

## 16. その他の情報

参考文献  
The Merck Index (13th, 2001)  
ICSCカード(International Chemical Safety Cards) (1997)  
ACGIH (2001)  
産業学会勧告(1995)  
環境リスク評価第2巻(2003)  
GHS分類結果(日化協G)  
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ

---

GHS分類結果データベース  
12093の化学商品（化学工業日報社）  
危険物・毒物処理取り扱いマニュアル（海外技術資料研究所）  
石灰 No.443（1992年11月号）  
既存化学物質安全性点検データ

**災害事例**

情報なし

---

- ・本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではありません。
- ・このデータは作成時の知見により作成しており、すべての情報を網羅しているものではありません。
- ・弊社が知見を有さない危険性、有害性を有する可能性もありますので、取り扱いに際しては用途、用法等の実態に応じた安全対策を実施されますよう、お願いいたします。